

緑の少年団とは

緑の少年団は、森や緑を守り育てることを目的とした、子どもたちが主体の団体です。活動は大きく分けると、森の機能や保全について学ぶ学習活動、植樹や樹木の手入れを行う奉仕活動、ハイキングやキャンプなどを楽しむレクリエーション活動の3つ。2025(令和7)年10月現在、県内で120団、7,567人の団員が、自然の中で学び、遊びながら森と豊かな心を育んでいます。緑を守る一員になりませんか。(県治山課)



あさご緑の少年団(朝来市)の奉仕活動。 やまもりっこクラブ(宝塚市)のレクリエーション活動。

問 県治山課
078-362-3613
078-362-3952

詳しくは
こちら

- 各団では仲間を募集しています。
- 県では、出前講座や指導者研修会を通じて、少年団の活動をサポート。団の結成も支援します。
- いずれも詳しくは県ホームページに記載の県緑の少年団連盟各地区連絡協議会に問い合わせを。

折々のふるさとを歌い継ぐ 丹波篠山デカンショ節

丹波篠山の地では、時代ごとの風土や名所、名産などをデカンショ節の歌詞にして愛唱することで、故郷の風景を守り伝えてきました。その流れは脈々と受け継がれており、毎年「日本デカンショ節大賞」として新しい歌詞を公募。優秀作品は、その年のデカンショ祭で披露されます。今では400番を超えるデカンショ節。そのストーリーは2015(平成27)年、他県の17件と共に日本遺産の第1号に認定されました。(丹波篠山市市長公室 隅田浩規さん)



デカンショ節を歌い踊るデカンショ祭は毎年8月に開催。



「並木千本咲いたよ咲いた
濠に古城の影ゆれて」と



「灘の銘酒はどなたがつくる
おらが自慢の丹波杜氏(とうじ)」

丹波篠山市市長公室 079-552-6160 079-552-5115

詳しくは
こちら

性教育ではなく生教育 子どもたちに生きる力を

明石市のNPO法人HIKIDASHIは、性教育の講演や性について話せる「性教育力フェ」の開催、絵本の発行などを通して、包括的性教育※の普及啓発に努めています。元県の保健師で代表理事の大石真那さんに、活動を始めた経緯や幼児期からの包括的性教育の大切さを聞きました。(取材・文 本紙編集部)

※体や生殖の仕組みだけでなく、人間関係や性の多様性、ジェンダー平等など幅広いテーマを含む性教育

Q.活動を始めた経緯は。

末娘を妊娠中、8歳の長男に「赤ちゃんはどうやってお母さんのおなかに来たの?」と聞かれ



「わが子に話したくなる保護者のための性教育入門」と題して講演。

たのがきっかけです。改めて性教育について調べるうち、人権の尊重を基本とする包括的性教育の

重要性を実感し、その推進を専門とするNPO法人を2022(令和4)年に立ち上げました。

Q.著書「げっけいのはなし いのちのはなし」について。

月経や妊娠、出産について伝えている絵本が見当たらなかったので、自分で作ろうと。男児にも自分のこととして捉えてほしくて小学生の男の子を主人公にしました。「出産は命をつなぐ大切なことだけれど、産まない選択肢もある」とい



「子どもへの性教育の方法が分からない人は、この絵本を読み聞かせるだけでOKです。」

うメッセージも盛り込んでいます。

Q.幼児期からの包括的性教育はなぜ必要? 自分を知り、他者との違いを認め、自分らしく生きていくための教育だからです。子どもを一人の人間として尊重することがその第一歩です。